



食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋。秋の夜長の睡眠の秋・・・皆さんはどの秋を選びますか？

第40期スローガン 『ゼロベースで戦おう！』

2010年9月1日、我社は、大変重みのある第40期を迎えました。

次なる節目の45期、50期に向けていよいよスタートを切り、将来の我が社の行く末を決定づける一年といっても過言ではないと思います。

40期の経営方針、部門方針、中期計画の内容は9月4日の年度方針発表会に譲るとして、今期のスローガンは「ゼロベースで戦おう！」としました。

厳しい経営環境下であるが故に既成の概念にとらわれることなく、“原点に帰り”、“基本に忠実”に事を進めていくことが肝要かと考えます。

これからの赤武エンジニアリングを果敢な挑戦による成功と失敗で創りあげていきたい。

我社は1971年9月に設立。これからは技術の時代であることをコンセプトに、粉体ハンドリング技術の分野に特化し、開発型企业として今日まで事業を展開してきました。

この39年間に幾多の困難を全従業員の総力で乗り越え、我々の生活の基盤を築いてきたと同時に社会的責任も果たしてきたと自負しています。

経営の舵取りを預かるものとして、今後も山あり谷ありの経営を強いられることを覚悟しています。

また、“社員の満足なくして顧客の満足は得られない”を旨として経営に取り組んでいく所存です。

過去に何回も述べてきたように、私は経営の原点はやはり“感謝”であると確信しています。

凡そ、人は一人では生きていけないし、企業も周りを取り巻く方々があってこそ生きられる。

この点を勘違いすると人も企業もあらぬ方向へ行ってしまう、結局は組織から社会から見放されてしまうでしょう。ものづくりに携わっている我社は、従業員全員が粉体機器メーカーとしての適度なプライドを持つと同時に働く場があること、お客様から注文やお礼・苦情をいただけること、同志がいることなど全てに感謝の気持ちを忘れなければ必ず生き残っていけるものと信じています。



我々は時として心の琴線に触れることがあります。

昨今の殺伐としたマスコミ情報が氾濫する中であって、

先日、ある新聞に野球部に所属している15歳の男子中学生が投稿している文章が目にとまりました。

『親が、汚れたユニホームを毎日真っ白に洗濯してくれること、遠方で開催される試合には忙しい中いつも送迎してくれること、妹が大人に混じってぼつんと一人で応援してくれることなどを嬉しく思う。また、母親が作ってくれた弁当を見ると涙が出そうになる。周りの人に支えられているから好きな野球ができる、頑張ってプロ野球の選手になって恩返しをしたい。』と。



世知辛い世の中にあっても、このように情味を失わず思いやりの精神を持ち続けたいものです。今後も基本を忘れず、経営理念の実現に向けて挑戦していきましょう！

社長 赤堀 肇紀